

諏訪湖に係る第7期湖沼水質保全計画の概要

1 策定の趣旨

第6期諏訪湖水質保全計画では「人と生き物が共存する諏訪湖」を長期ビジョンとして掲げ、かつての多種多様な水草や魚介類を育てていた諏訪湖の実現を目指して各種施策に取り組んできた。引き続き、国、県、流域市町村、住民、事業者との協働により、総合的かつ計画的に実施できる体制を構築し、生態系の保全を含めた水質保全施策を一層推進するため、湖沼水質保全特別措置法に基づき、平成29年度を計画期間の初年度とする「諏訪湖に係る第7期湖沼水質保全計画」（第7期諏訪湖水質保全計画）を策定する。

2 水質保全に関する方針

- (1) 計画期間 平成29年度（2017年度）から平成33年度（2021年度）までの5年間
- (2) 長期ビジョン（20年後の目指す姿）

人と生き物が共存し、誰もが訪れたいくなる諏訪湖

長期ビジョンを実現するために目指す姿

清らかで人々が親しむことができる湖水・湖辺

多種多様な生き物を育む湖

人々が憩い、やすらげる水辺空間

諏訪湖の恵みを知り、育つ学びの場

(3) 水質目標

(mg/L)

項目		水質目標 (平成33年度)	現状 (平成28年度)	第6期湖沼計画期間 変動幅 (平成24~28年度)	環境 基準	参考値 (平成33年度の 水質予測値)
COD	75%値	4.8	5.6	5.6~7.5	3	4.8 (4.4~5.5)
	(参考) 年平均値	4.4	4.4	4.4~5.9	-	4.6 (4.0~5.0)
全窒素	年平均値	0.65	0.88	0.88~0.94	0.6	0.74 (0.65~0.78)
全りん	年平均値	現状水準の維持	0.050	0.050~0.062	0.05	0.045 (0.039~0.052)

新たに「透明度」を目標値に追加

項目		目標値	現状 (平成28年度)	第6期湖沼計画期間 変動幅 (平成24~28年度)
透明度	年平均値	1.3m以上	1.2~1.3m 〔湖心：1.3m 初島西：1.2m 塚間川沖200m：1.3m〕	0.88~1.5m 〔湖心：0.98~1.5m 初島西：0.88~1.3m 塚間川沖200m：1.0~1.4m〕

3 主な取組

(1) 生活排水対策

- ▶ 下水道整備や浄化槽の設置を進め、快適生活率*を向上 (98.6% → 98.9%)

* 快適生活率 (%)

下水道、農業集落排水などの集合処理計画区域や浄化槽による整備計画区域内において、整備されたそれぞれの生活排水施設を実際に利用している人口の率

(2) 湖沼の浄化対策

- ▶ 栄養塩類を吸収した水草の除去、ヒシの繁茂抑制
水草刈取船によるヒシの刈取り、手作業によるヒシの抜き取り、ヒシの繁茂抑制
- ▶ 覆砂

(3) 流入河川等の浄化対策

- ▶ 多自然川づくりの推進
- ▶ 沈殿ピットによる栄養塩類を含む土砂の除去
- ▶ 植生水路による栄養塩類の除去

(4) 流出水対策

- ▶ 市街地対策
 - ・ 雨水貯留、沈殿施設による市街地排水処理
 - ・ 道路路面、側溝、水路等の清掃の実施
- ▶ 農地対策
 - ・ 土壌診断に基づく過剰施肥の防止、局所施肥技術の普及
 - ・ 減肥栽培技術の導入、環境にやさしい農業への取組拡大
 - ・ 環境にやさしい農産物認証への取組支援、エコファーマーの認定
 - ・ 水路の泥上げ・補修、草花の植栽、農道の保全管理
 - ・ 環境農業により生産された農産物の優先的な選択と地域内での流通の促進
- ▶ 自然地域対策
 - ・ 間伐を中心とした森林整備の推進
 - ・ 伐採、再造林による土壌侵食や崩落による汚濁負荷の流出防止

(5) その他水質保全のために必要な措置

- ▶ 貧酸素対策の推進
 - ・ 底層溶存酸素量 (底層 DO) の環境基準の類型当てはめ
 - ・ 湖岸域の対策 (ヒシ除去、覆砂 等)
 - ・ ゴーピング等により、重点的に貧酸素を解消するエリアの設定
 - ・ 貧酸素に関する調査・研究の実施
- ▶ 調査研究の推進
諏訪湖を一体的・総合的に調査研究する体制を整備することなどを目的とした、諏訪湖環境研究センター (仮称) の設置について検討

(6) 流出水対策地区における流出水対策

- ・ 「上川・宮川流域」を第6期湖沼計画に引き続き流出水対策地区として指定
- ・ 全窒素濃度の高い「宮川」の本川、支川の水質調査などを実施し、土地利用状況に応じた流出水対策を検討